

元 林 新規、海外事業を推進 神戸へ本社移転で社員に刺激



上質なレザーを使い国内で生産するバッグ「プレイ」

雑貨製造販売、元林は今年1月、本社を大阪から神戸に移した。事業拡大が目的で、これまでの延長線上に未来はないと考え、今年5月には5カ年計画を策定する。キーワードはブランドینگとグローバルとし、既存事業を見直し、新規事業にも取り組む。

同社は今年115周年を迎える大阪の老舗企業だが、「思い切った場所を変えれば、社員は気持ちも変わるのでは」と元林承治社長は発想したという。旧

大阪本社はオフィスが3層に分かれ、事業部の壁もあったが、新本社はワンフロアのフリーアドレス制とした。社員は既に落ち着いて仕事をしているという。

同社の事業は喫煙具、バッグなどファッション商品、100円ショップ向け商品、ライフスタイル関連と幅広い。今後重視する軸の一つ、ブランドینگでは、「同じものでも選ばれるブランドになることが必要」（同社長）との考えがベースに

ある。現在は取引先の要望に対応している100円ショップ商品でも、ブランドینگすればより選ばれる商品になるという発想だ。愛煙家に豊かなライフスタイルを提案するスモーカーカフェ「ブリケ」は関東に2店あり、スモーカーのパートナー

1というブランドینگを強め、多店化したいとする。

海外販売比率は現状、5%ほどしかなく、中国、東南アジアを中心に欧州も視野に入れる。特に中国は上海の拠点を活用し、日本製レザーバッグの「プレイ」、国産オイルライターなどの販売を手始めにする予定だ。

新規事業は社員からの発案を元に進める。インバウンド（訪日外国人）向け、ベビー用品のオリジナルブランドなど、既に複数のプランが上がっており、具体化に入ったものもある。